

一般入学試験（後期日程）

文学部・経済学部・法学部・工学部・人間環境学部

英語

(P.171)

【出題の意図・ねらい】

全体としての出題の意図・ねらいは、例年同様、中高での学習内容をどの程度身につけているかを総合的に試すことにあります。要素としては、英語学習に基本的な文法、語彙、語法、発音、コミュニケーション、作文、読解の各分野を総合的に出題しています。出題パターンもほぼ例年通りです。

①、②は文法、語彙・語法に関する問題で、③は文構造を中心とした作文問題、④はコミュニケーションに関する問題で、録音など音声を使った出題がない点を補うと同時に、簡単な会話文の読解、前後関係を認識した上での対話力を問う問題でもあります。⑤は長文総合問題で、内容読解のほか、本文中に現われる単語の発音、語彙を問う問題、要点の文法的理解を問う問題などを組み合わせて出題しています。英語長文は本学受験生が関心を持つような内容を、読みやすい英語で出題者が自ら書き下ろしました。

以上出題は文法、語彙・語法、発音、コミュニケーション、読解等、英語の基礎的総合力を試すことが目的で、何れも基礎

的な問題です。難問、奇問は極力避けました。

【採点結果からの感想】

全体の平均点も、学部ごとの平均点もほぼ妥当なところに落ち着いていますが、得点分布は工学部と人間環境学部を除き平均点前後を頂点とし、正規分布に近い形になっています。工学部では平均点のやや下で最大の得点分布があり、やや上で次の山があります。人間環境学部では平均点より少し上の部分に最大の得点分布が見られます。この結果から、出題した問題は平均的ではあるが、学部によっては英語に強い受験生と、やや苦手な受験生が混在していると思われます。

【これからの学習の指針】

英語学習の基本は毎日の積み重ねです。語彙語法、文法、発音のそれぞれを、断片的知識と軽視しないで、着実に積み上げ、反復修得していくことが必要です。日頃音声教材もよく聴いて、それにあわせて発音をし、機会があればコミュニケーションにも挑戦するといいいでしょう。長文にも日常的に接し、未知の単語をこまめに辞書で調べ、意味や発音を確認し、音読し、やや高度の英文であれば訳読を試みるという、地道な勉強が必要なのは、語学学習に共通していえることです。

文学部（比較文化学科・現代社会学科）・経済学部・法学部・工学部・人間環境学部

国語

(P.176)

【出題の意図・ねらい】

出題分野は、現代文3題です。㊦は近代以前の宗教と現在の宗教との比較を通して、現在の宗教および宗教観について論じた評論文、㊧は子育てについての論説文、㊨は今年の東日本大震災に関する随筆から出題しました。㊩は概ね、指示語の適切な読み取り、筆者が述べる内容の正確な理解、文脈の理解など、読解力を問う設問です。解答にあたり、宗教関連の知識は特に必要ではなく、丁寧に文章を読み進めることで、正答に至れるように作成しました。㊪は親子や家族といった自分自身も経験していることについての文章なので、自身の経験からある程度内容を理解できる一方、その経験が思い込みになり、正確な読解ができないこともある点で注意が必要です。主として論理的で正確な読解力の有無を確認するための出題です。㊫は語句問題で、漢字の読み書きや接続詞、慣用句の使い方など国語の基本的運用力を試すものです。

【採点結果からの感想】

今回の受験者全体の平均正答率は約67%でした。㊦の正答率は、㊧と㊨に比べて全体としてやや低い結果となりました。宗教というテーマに少し戸惑った受験生もいたのかもしれませんが、特に、筆者の神秘体験に関する考えを問う問七の正答率は最も低く、「それ」の意味を問う問三の正答率も低かったです。一方、3つの文を正しい順番に並べ替える問題である問二や、「着

脱可能な『プチ宗教』の意味を問う問九は比較的良好にできていました。㊭と㊮は比較的読みやすい文章であったためか、全体的によくできていました。㊯で正答率が低かったのは、問四と問五です。問四は、本文中の表現とは異なる言い回しで本文と内容が同じものを選択する問題ですが、選択肢のどの表現が本文中のどの内容を指しているかに注意して読めば、解ける問題です。問五は、間違えやすい選択肢があるため難しかったかもしれませんが、やはり文章を丁寧に読めば解けるはずですが、このような文章内容の正確な把握を要する問題にも対応できる力を身に付けましょう。㊰では漢字の読み書き問題や反対語の問題はよくできていました。一方、異なった表現で意味を問う問六の正答率が最も低かったです。また、問三の四字熟語問題、問四の接続詞問題も正答が少なかったです。

国語は、毎年、類似した形式で出題されていることに注目して勉強しましょう。国語の成績を急激によくすることは難しいので、日頃から様々な文章を問題意識をもって読解することを習慣化する地道な努力が必要です。このような訓練は、大学入学後の学問の基礎力となり、将来も役立つことは間違いありません。

工学部

数学

(P.183)

【出題の意図・ねらい】

工学部で学ぶ数学は高校で習う数学を基礎としています。それが身についているかをみることが出題の意図・ねらいです。

【採点結果からの感想】

①小問からなる問題です。

[1] 不等式の表す領域 決して難しい問題ではありません。問題文をよく読んで、図を描いてみましょう。正答率は予想していたよりも低めでした。

[2] 対数 対数関数の性質が身についているかを確認する問題です。よくできていました。

[3] ベクトル ベクトルの成分、大きさについてはよくできていました。2つのベクトルのなす角 θ について $\cos\theta$ もよく問われますので、注意しましょう。

[4] 数列 等比数列の問題です。初項と公比を用いて一般項がどのように表されるかを考えて、方程式をたてましょう。正答率は低めでした。

[5] 確率 期待値に関する問題です。よくできていました。

②三角関数の問題です。

[1] 三角関数の変形 $a\sin\theta + b\cos\theta$ の形の式を変形させる問題はよく出題されます。何度も練習しておきましょう。

[2] 最大値・最小値 x の範囲にも注意してください。

[3] 方程式 三角方程式の計算です。正答率は低めでした。

③三次関数の問題です。

[1] 微分 素直な微分の問題です。とてもよくできていました。

[2] 極大値・極小値 同じような問題で解き方を何度も確認してください。

[3] グラフと x 軸との交点 よく問われる問題です。計算間違いをしないように気を付けましょう。

[4] 接線・面積 接線の求め方も復習しておきましょう。曲線等で囲まれた部分の面積はよく出題されます。何度も練習し、計算にも慣れておきましょう。正答率が最も低かった問題です。

【新受験生への、これからの学習のための指針】

式の計算、方程式や不等式の解法、2次関数や3次関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な性質と微分積分などが出題されます。問題は基本的なものがほとんどです。まず、教科書を中心に上記の事柄に対する理解を深めてください。与えられた時間内に解答ができるように、教科書に載っている章末問題などを反復して解いて計算力を身につけるとよいと思います。

数学 (I・A)

(P.184)

【出題の意図・ねらい】

大学での授業を理解するための基礎的な学力が身についているかどうかを確認することが出題の意図です。基本問題の練習によって概念や公式をしっかり理解して正しく使えるようにしておきましょう。

【採点結果からの感想】

①は様々な分野からの小問です。[1]、[2]の前半はよくできていました。[3]の2項定理はよく出題される問題ですが、出来はよくありません。教科書などで類似の問題を確認してください。[4]では計算ミスをしないうち注意しましょう。[5][6]はよくできていました。

②は2次関数に関するものです。[1][3]はよくできていましたが、[2][4]はやや不出来で、特に[5]はできていませんでした。2次関数の性質は、グラフの形と関連させながら理解しておくことが必要です。もう一度復習して下さい。

③は様々な順列に関する問題ですが、正答率は思ったほど伸びませんでした。

【これからの学習の指針】

公式を表面的に丸暗記するのではなく、公式を様々な状況で適切に使う力をつけることが重要です。まずは、教科書の章末問題程度の問題に自分の力で取り組んでみてください。問題練習の際には公式や基本事項がどのように使われるか注意しましょう。正答にたどりつくためには、もちろん正確な計算力も、練習によって身に付けておく必要があります。数学IAという限られた範囲からの出題ですので、全分野にわたって学習し、受験に備えてください。

人間環境学部 (健康栄養学科)

生物

(P.186)

【出題の意図・ねらい】・【採点結果からの感想】

①は動物および植物の細胞を構成しているそれぞれの小器官の構造と機能に関する問題でした。問1については正答率も非常に高く、基本的な内容について十分に理解していることが伺えました。問3の色素(カロテンやキサントフィル)に関する問題は難しかったようでした。

②の光合成、発芽および植物ホルモンについての出題でした。問1は予想通り非常に高い正答率でしたが、問4および問5は部分的には非常に高い正答率の問題もありましたが、全体的に見ると正答率が低めとなり、意外な結果となりました。特に、植物ホルモン(問5)は難しかったようです。

③は生体の機能調節に関する問題で、循環に関する問題および自律神経とホルモンについて出題されました。血液の循環経路についての問2は難しかったようですが、冷静に考えれば答えられるはずで、問5および問6は定番問題であるため、正答率も高くなりましたが、「血糖値の調節」や「すい液の分泌」については難しかったようで、意外な結果となりました。

④はスイートピーの遺伝子型や表現型に関する問題でした。 F_2 や F_3 での表現型は少々複雑で、特に問5や問6は他の問題と比較して難しかったようです。遺伝の問題は手間がかかりますが、図や表を描くなどして情報を整理すれば十分に対応できるはずで、

【採点結果からの感想】

正答率が極端に低い問題はなかったため、受験生が十分に準備してきたことがわかりましたが、こちらの予想に反して正答率が低い問題も見受けられました。今回の問題を全体的に見ると、構造と機能に関する問題の正答率が低かったように感じました。

【これからの学習の指針】

生物学の教科書は年を追うごとに充実してきており、これを網羅して勉強を進めていくのは容易ではありませんので、特定の分野に偏りがちで、また、単純に丸暗記にもなりがちです。その結果、出題者の予測と異なる問題の正答率が低くなっているようでした。生物学の教科書は比較的イラストが多いので、細胞内小器官や細胞、組織、あるいは臓器の形態も図示されていると思います。それぞれの機能を確認しながら、形態との関係をイメージできる様に学習を進めるとよいでしょう。